

岡山市水道事業総合基本計画(アクアプラン 2017)
アクションプラン前期編(平成 29 年度～令和 3 年度)

アクションプラン前期編 5 か年の取組結果

水道局では、平成 29 年に水道事業の中長期的な事業運営の方針を示した「岡山市水道事業総合基本計画アクアプラン 2017」を策定し、その具体的実行計画であるアクションプラン前期編に基づき事業を推進してきました。

アクションプラン前期編の計画期間は令和 3 年度までであり、この資料は、前期編 5 年間の取組の進捗及び成果並びに評価指標の結果をとりまとめるものです。

岡山市水道事業総合基本計画

アクアプラン 2017

《平成 29 年度～令和 8 年度》

進捗・成果、指標の
達成状況を検証

取組・目標値を見直し

アクションプラン前期編
(平成 29～令和 3 年度)

アクションプラン後期編
(令和 4～8 年度)

基本理念と4つの基本施策



基本理念である「ゆるぎない安心と信頼の追求」の達成に向け、4つの基本施策に基づき事業を推進しています。

事業費の進捗状況

(単位：百万円)

	計画額 (H29~R3)	執行額						進捗率 (%)
		H29	H30	R元	R2	R3	合計	
安全でおいしい水の追求	460	69	104	141	59	37	410	89.1
水の安定供給と強靱性の確保	36,929	7,373	7,091	6,750	7,559	7,922	36,695	99.4
満足度を高めるサービスの充実	44	12	22	17	37	153	241	547.7
持続可能な水道システムの構築	437	68	75	72	81	95	391	89.5
合計	37,870	7,522	7,292	6,980	7,736	8,207	37,737	99.6

基本施策の4本柱の進捗率の合計は約100%となり、順調に進捗しました。

※「満足度を高めるサービスの充実」の執行額は、水道記念館の耐震補強工事・展示物更新等の費用（約1億9,000万円）を含んでいるため、計画当初よりも増加しており、進捗率が547.7%になっています。



安全でおいしい水の追求

主要事業	清浄、豊富な原水の確保	1億8,300万円
事業方針	安全でおいしい水道水を送り続けるために、清浄で豊富な原水を確保します。 流域自治体や関係者と連携して、水源の大部分を依存する旭川源流地域での水源及び地下水源を保全します。	

・水源林事業の継続実施

- ▶ 旭川水源地域（鏡野町、新庄村）での水源林の保育・整備

間伐：40.6ha 枝打：8ha

○間伐

混み過ぎた林の木を間引くこと。残す木の生育を助け、光が射し込み、下草などが茂るため、水源かん養機能や土砂流出防止機能が高くなる

○枝打

発育を促したり、節のない材木を得るために木の下枝を切りはらうこと



水源林事業/間伐作業

・地下水源の監視、保全

- ▶ 矢原浄水場紫外線処理設備設置

(H30～R元)

○紫外線処理施設

クリプトスポリジウム等の耐塩素性病原生物に作用し感染力を失わせる設備



紫外線処理設備/矢原浄水場



安全でおいしい水の追求

主要事業	水質管理体制の充実 2億2,700万円
事業方針	岡山市水安全計画を運用し、水源から蛇口までのあらゆる危害要因に対応した総合的な水質管理を行います。異臭味被害や新たな水源汚染物質などの水質上の課題に対応し、安全でおいしい水をお客さまにお届けするため最適な処理を追求します。

・河川監視、水質検査体制の充実

- ▶ 三野浄水場魚類監視装置 (H29)
- ▶ ガスクロマトグラフ質量分析計 (H29、R3)
- ▶ 誘導結合プラズマ質量分析装置 (H30)
- ▶ 生物観察用顕微鏡 (R元)
- ▶ 液体クロマトグラフ質量分析計 (R2)



誘導結合プラズマ質量分析装置

○誘導結合プラズマ質量分析装置

水に含まれる鉄・銅・マンガン等の金属類を測定する装置

○ガス・液体クロマトグラフ質量分析計

水道水や河川水に含まれている有機化合物を測定する装置。主に農薬類などを測定し、農薬の種類によって使い分けをしている



液体クロマトグラフ質量分析計

・残留塩素濃度の低減

- ▶ 次亜塩素酸ナトリウム注入設備取替
4か所 (H29 2か所、R元 1か所、R2 1か所)
- ▶ 水質監視装置取替
4か所 (H30 3か所、R元 1か所)

○残留塩素濃度の低減

水道法では衛生上必要な措置として、蛇口から出る水道水の残留塩素濃度を 0.1mg/l以上保持するように塩素消毒を義務付けている。一方、塩素臭を感じるとおいしくないと感じるため、法律の定めに近い数値での運用が理想

○次亜塩素酸ナトリウム

水道水を塩素消毒するための消毒剤



次亜塩素酸ナトリウム注入設備



安全でおいしい水の追求

主要事業	水質保持の取組強化
事業方針	蛇口まで水質の安全性・快適性を確保するため、給水装置や貯水槽の維持管理が適切に行われるようにお客さま、指定給水装置工事事業者と水道局の連携を深めます。

・貯水槽水道（10m³以下）の維持管理の啓発

- ▶ 保健所と連携して貯水槽水道設置者へ、貯水槽清掃を啓発するパンフレットを発送4,000件（H30～R3）

○貯水槽水道
ビル、マンション等の建物で、水道局から供給されている水をいったん貯水槽に貯めた後利用者に給水する施設。保健所が施設の把握、衛生管理の普及啓発、適正な管理に関する指導を行うこととされている。貯水槽の管理は水道水の安全やおいしさに関わるため水道局も啓発に努めている



啓発パンフレット

・指定給水装置工事事業者の技術力向上

- ▶ 県内事業者と協力し、水道法等の関係法令の周知、最新技術や情報の提供など、工事事業者の技術力とお客さまサービスの向上を目的に、広域的な研修を実施（H29、R3）



指定給水装置工事事業者研修会



水の安定供給と強靱性の確保

主要事業	浄水・配水施設の計画的更新と耐震化 77億4,300万円
事業方針	更新時期を迎える浄水・配水施設について、アセットマネジメント手法を用いて事業費の平準化に努めながら、維持補修による機能回復と更新による機能向上を計画的に実施し、併せて耐震化を進めます。また、水需要に応じた施設の再編を進めます。

・三野浄水場の浄水処理施設の更新・耐震化



▶ 薬品沈殿池築造・改修 (H25~H30)



▶ 脱水施設更新 (R2~R5)



○脱水施設

取水した原水を浄水処理する過程で取り除かれた河川中の濁り(土砂)などの沈でん物を、機械で圧力をかけて脱水する施設。脱水処理された浄水発生土は「おかやま産土」の名称で園芸用土として販売するなど有効利用の促進に努め、リサイクル率100%を達成している。

・アセットマネジメントに基づく、緊急度上位設備の優先的更新

▶ 旭東浄水場集中監視制御設備改修 (H28~H30)

▶ 矢坂山加圧ポンプ場装置更新 (H29)

▶ 三野浄水場4号配水ポンプ改修 (H30)

▶ 三野浄水場次亜塩貯留タンク更新 (R元)

▶ 三野浄水場3号配水ポンプ改修 (R2)

▶ 三野浄水場第5水源3号取水ポンプ更新 (R3)

○アセットマネジメント

最小の費用で安全かつ適切な機能を維持するとともに、重要度・優先度を踏まえた更新投資の平準化を図るための資産管理の手法



次亜塩貯留タンク/三野浄水場



水の安定供給と強靱性の確保

主要事業	水道管路の計画的更新と耐震化 274億9,100万円
事業方針	約4,400km 布設されている水道管路を計画的に更新し、併せて耐震化を進めます。更新・耐震化にあたっては、点検、維持管理を強化し、施設の長寿命化を図りながら水道管路システム全体の中での役割、重要度、災害発生時の市民への影響等から優先順位を定めて計画的に進めます。

・水道管路の更新

水道管更新 約220km

※管路延長 4,384km (R3)

管路更新率 1.0%

(前期編5か年の平均値)



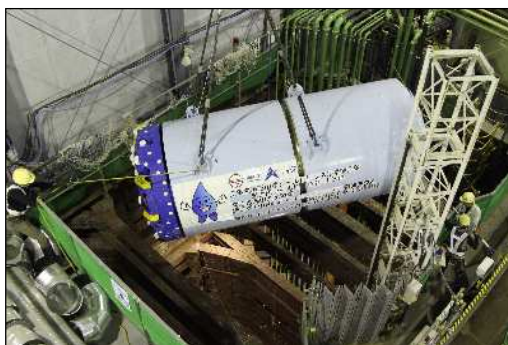
耐震管布設工事の様子

・基幹管路（口径400mm以上）の更新及び耐震化

▶ 半田山線 シールドトンネル 築造 (H29～R3)

▶ 半田山線口径1000mmの配水管布設 (R3～R4)

※半田山線 学南町(総合グラウンド付近)～岡山駅西口～大供本町(商工会議所付近)



シールドマシン



トンネル内部

○シールドトンネル

シールドマシンと呼ばれる筒状の機械で土の中をゆっくりと掘り進め、前方の土砂を削りとりながら、同時に後方に壁面を組み立てていく工法により構築されたトンネル



水の安定供給と強靱性の確保

主要事業

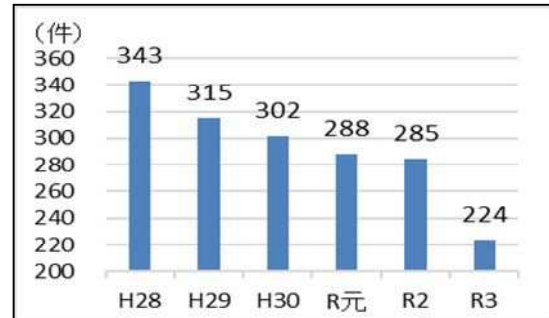
水道管路の計画的更新と耐震化

計画的な管路更新を実施

管路耐震化率は順調に上昇
漏水事故件数は減少傾向



基幹管路耐震適合率



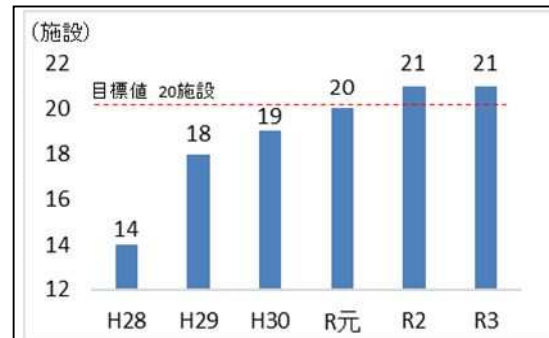
漏水事故件数

・災害時拠点施設への水道管の耐震化

▶ 目標値 20 施設に対し、21 施設完了

※前期編 5 か年で完了した施設

市役所本庁、岡山県庁など 7 施設



耐震確保拠点施設数

○災害時拠点施設

負傷者の治療を行う医療施設、災害対策本部となる公共施設や広域避難場所など災害時に拠点となる施設



水の安定供給と強靱性の確保

主要事業	災害対策の推進 2億1,100万円
事業方針	南海トラフ巨大地震等の災害に備え、必要な水道水が確保できるように施設の耐震化以外にもハード面での整備を進めます。

・ **浸水対策** 止水板の設置、嵩上げ、防水扉への取替えなど

- ▶ 三野浄水場 (H29～R元、R3)
- ▶ 矢原浄水場 (H29～R元)
- ▶ 川口浄水場 (R元)



止水板の設置/三野浄水場

・ **停電対策** 非常用発電機の更新、設置

- ▶ 矢原浄水場 (R元)
- ▶ 妹尾加圧ポンプ場 (R2)
- ▶ 横井第2加圧ポンプ場 (R3)



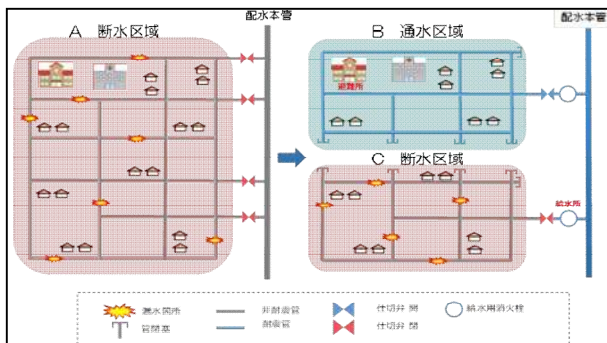
防水扉への取替



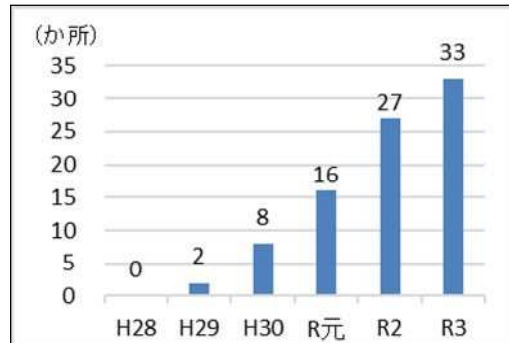
非常用発電機/横井第2加圧ポンプ場

・ **配水管網小ブロック化の推進**

- ▶ 市街地の小ブロック化数 33か所



小ブロック化のイメージ



市街地の小ブロック化数

○小ブロック化

配水区域を小規模に分割して管理することで、災害や事故時の断水区域を最小限に抑えるとともに、早期復旧にも寄与する



水の安定供給と強靱性の確保

主要事業	危機管理体制の充実 3億5,700万円
事業方針	地震、台風、集中豪雨などの自然災害や水質事故、機器の故障などの非常事態が発生した際に、迅速に給水及び復旧を行えるように緊急時の対応力を高めます。

・緊急時対応力の強化

- ▶ 東京都、堺市、広島市及び倉敷市との5都市合同防災訓練など、防災訓練を18回実施（H29～R3）
- ▶ 東京都水道局と災害時相互応援活動に関する覚書の締結（H29）
- ▶ 本局と有人の各出先施設間にテレビ会議システムの導入（H30～R2）
- ▶ 加圧式給水車の更新 1台（R元）現在 8台保有
- ▶ 組立式給水タンク 13基購入 現在15基保有
- ▶ 非常用飲料水袋等の災害備蓄品の購入 など



テレビ会議システムでの状況報告
/5都市合同防災訓練



東京都水道局との災害時相互応援活動
に関する覚書の締結式



加圧式給水車



満足度を高めるサービスの充実

主要事業	お客様の利便性の向上
事業方針	お客様の利便性と満足度を高めるため、各種サービスの充実を図るほか、新たなサービスの研究・検討を行い、お客様の視点に立ったサービスの提供に努めます。

・お客様の利便性の向上

- ▶ 電話受付センターの開設（H29）
- ▶ 修繕対応事業者情報の提供開始（H29）
- ▶ 請求書等への点字表示（H29）
- ▶ 口座振替継続受付サービス開始（H30）
- ▶ スマートフォン決済の導入（R2）
- ▶ スマートメーター実証実験の開始（R3）



スマートフォン決済のイメージ

主要事業	お客さまとの意識の共有 2億3,900万円
事業方針	水道水のおいしさと安全性、施設・管路の更新需要や災害対策など、水道事業への理解と関心を高めるため、お客さまとのコミュニケーションをさらに深めます。

・広報活動の継続、拡充

- ▶ イベント実施
 - ❖ おかやま水道フェア（R2、R3は中止※）
 - ❖ 水道の日フェスティバル（R2、R3は中止※）
 - ※新型コロナウイルス感染症拡大によるもの
 - ❖ 水・ガス・電気実験工作室
岡山ガス、中国電力とのコラボ企画
- ▶ 小学校、公民館等での出前講座
103回実施 参加者3,978人（H29～R3）
- ▶ 広報紙「水道局だより」の発行（年2回、H29～R2）
災害時の給水場所、水道管の防寒対策ほか
- ▶ ホームページのリニューアル（R元）
- ▶ 岡山市水道記念館耐震補強、展示物更新（R2～R4）
- ▶ 三野浄水場見学者ホール改修（R3～R4）



おかやま水道フェア/岡山ドーム



工事中の岡山市水道記念館



持続可能な水道システムの構築

主要事業	経営基盤の強化
事業方針	健全経営を維持しつつ、必要な事務事業を実施するには、限られた収入を有効に活用することが極めて重要です。また、将来世代へも安全・安心な水道水をお届けしていく上で、財政基盤の安定化は欠かせません。引き続きあらゆる効率化策を模索しつつ、経営基盤の強化に努めます。

・企業債借入残高の縮減

将来の財政負担の軽減及び
 経営基盤の強化（平成28年度と
 比較し18億円の減）

※借入残高のピーク（平成12年度）

企業債残高	384億円
企業債利息	17.3億円



○企業債 地方公営企業の建設、改良などに要する資金にあてるために起こす地方債

・経営の効率化

▶ 管路のダウンサイジング

46.7kmの管路のダウンサイジングを実施し、13.5億円の事業費を削減

○管路のダウンサイジング

管路更新の際に、給水需要をもとに管路口径の小口径化を実施すること

▶ 電話受付の委託化による人件費の減

9人の職員を削減し、累計1.2億円の人件費を削減



持続可能な水道システムの構築

主要事業	組織づくりと職員の能力向上 2,700万円
事業方針	めまぐるしく変化する社会情勢及び複雑、多様化するお客さまニーズに迅速かつ的確に対応できる組織づくりを進めるとともに、職員個々の能力を高めることで、効率的な事業運営を実現します。

・研修の充実と人材育成

- ▶ 局内技術研修
(維持管理、応急給水研修等)
- ▶ 局外研修
(国立保健医療科学院：水道工学、
国際文化アカデミー：法令実務、
日本水道協会：漏水防止、水道
施設耐震技術 等)
- ▶ 配水管工技能講習会 (資格講習会へ講師派遣)



応急給水訓練/水道技術研修所
(高所への加圧給水)

主要事業	関係者との連携と国際協力
事業方針	多様かつ複雑化する経営環境のもと、効率的に事業を運営していくため、他事業者や民間企業等とお互いの強みを活かせる協調・協力関係を構築します。また、発展途上国への国際協力など幅広い視点からの水道分野への貢献についても進めます。

・広域連携の検討

- ▶ 県が令和4年度末までに策定する水道広域化推進プランの内容等について
県内事業者と協議 (岡山県広域連携推進検討会)

○広域連携

水道事業の基盤強化を目的に市町村の区域を超えた連携を行うこと。経営統合、施設の共同設置・共同利用、管理の一体化などの手法がある

○水道広域化推進プラン

広域化の推進方針や方針に基づく具体的取組の内容等を定めるもの。平成31年1月25日付け総務省・厚生労働省通知により、都道府県に対し、令和4年度末までの策定を要請



持続可能な水道システムの構築

主要事業	環境負荷の低減 3億6,300万円
事業方針	水道事業は、“原料”となる水や、浄水処理、配水の過程で使用する電力など、資源・エネルギーを大量に使用し、環境に大きな負荷をかける事業であることから、率先して環境負荷の低減に取り組みます。また、水道水を無駄なく使用できるように漏水防止事業を推進する等、貴重な資源の有効利用にも努めます。

・水道施設の省エネルギー化

- ▶ 21か所のポンプ設備を高効率機器に更新（H29～R3）



江並加圧ポンプ場



省エネルギー機器の導入率

・漏水防止事業の継続実施

- ▶ 漏水箇所を発見する漏水調査や事前に漏水を防止する老朽管更新の継続実施



漏水調査/夜間作業の様子

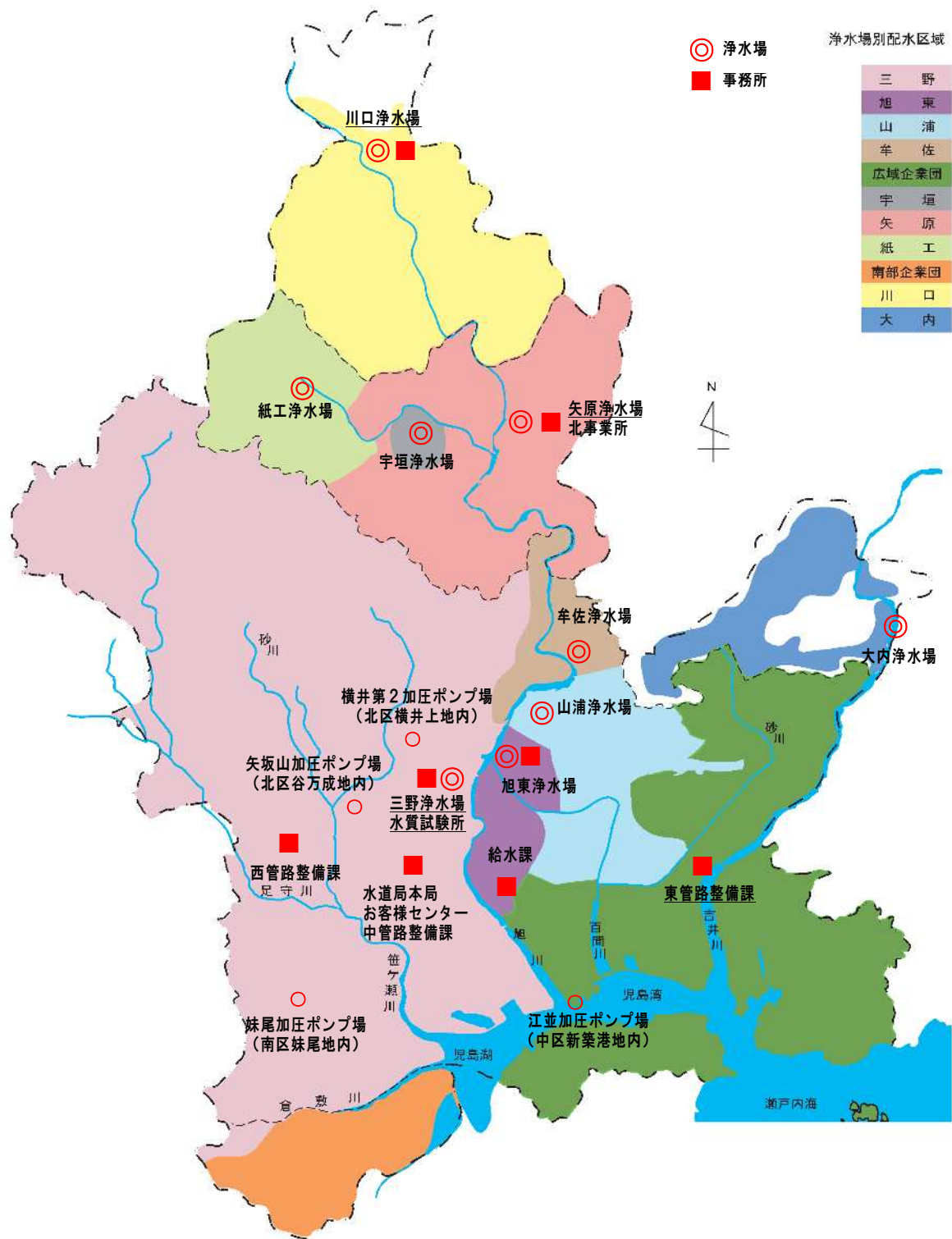


有効率

○有効率

有効率 = 年間有効水量 ÷ 年間配水量 × 100

有効水量とは、メーターで計量された水量又は使用者に到達したと認められる水量であり、主には配水量から漏水量を除いた水量

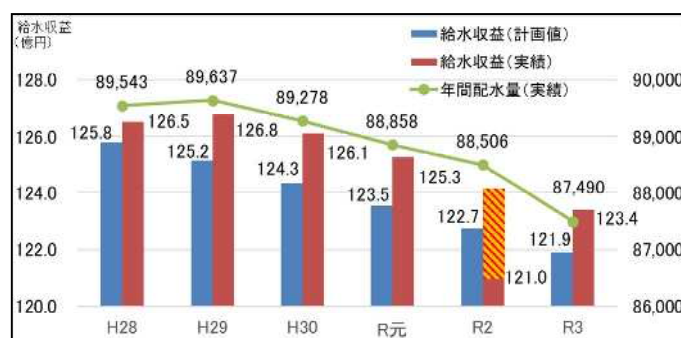


財政収支の状況

・年間配水量及び給水収益(税抜)

年間配水量は減少傾向

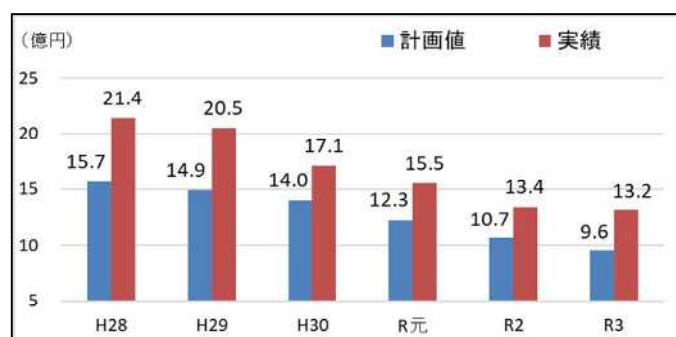
給水収益はアクションプラン
前期編策定時の計画値（以下「計画値」という。）を上回るが、減少傾向



※R2年度黄色部分は新型コロナウイルス感染症に伴う減免 3.1 億

・純利益

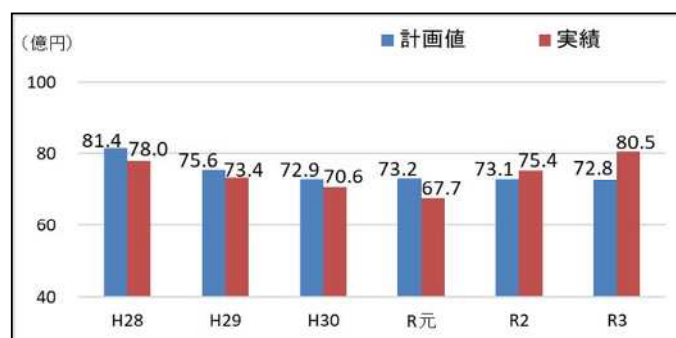
純利益は計画値を上回るが、
給水収益の減少と減価償却費の
増加により減少傾向



・建設改良費

令和元年度までは、契約残や
繰越等のため計画値を下回る。

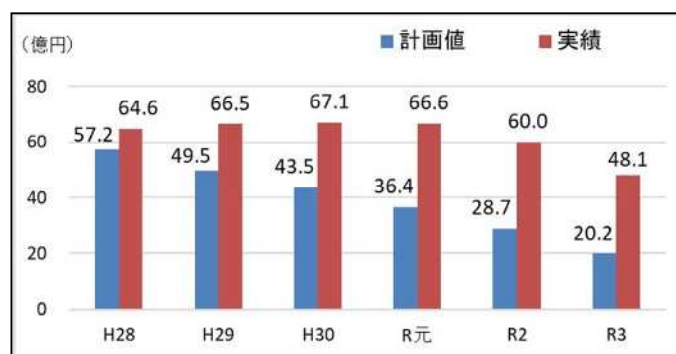
令和2年度以降は、三野浄水
場更新に係る工事費の増加や工
事費、材料費の高騰等のため、
計画値を上回る。



・内部留保資金

計画値と比較すると、内部留
保資金の減少は緩やか。

計画値との乖離の要因は、給
水収益の増(約8.8億円)、
修繕費など物件費の減(約6.2
億円)、企業債支払利息の減
(約2.2億円)など



アクションプラン前期編のまとめ

・前期編の進捗状況

事業費の進捗状況、評価指標とも、前期編の進捗は概ね計画どおりで順調

・今後の課題

(1) 配水量、給水収益の減少

配水量及び給水収益は長期的に減少傾向が続いており、今後も給水収益が伸びないことを前提に、効率的な事業運営を進める必要がある。

(2) 水道施設・管路の更新、耐震化の更なる推進

アクションプラン前期編では、水道施設・管路の更新、耐震化を重点課題として事業を推進し、各種指標値はほぼ計画通り進捗した。しかし、政令市平均を下回っており、今後も積極的に事業を進める必要がある。

指標値	H 2 8 実績 (基点)	R 3 実績	政令市平均 (R 2)
管路耐震管率	1 4 . 2 %	1 9 . 5 %	2 8 . 7 %
基幹管路耐震適合率	4 1 . 9 %	4 9 . 1 %	5 9 . 1 %
浄水施設の耐震化率	8 . 4 %	8 . 4 %	4 1 . 5 %
配水池の耐震化率	5 7 . 9 %	6 0 . 6 %	7 1 . 6 %

(3) 災害対策の強化

頻発化、激甚化する風水害に備え、浄水場等の浸水・停電対策にも注力する必要がある。

(4) 工事費の高騰

近年の工事費の高騰に対し、施設の統廃合やダウンサイジング、平準化等のアセットマネジメント手法を活用しつつ、投資の合理化を図る必要がある。



アクションプラン後期編の方向性

- ・ 基本的には前期編の取組を継続
- ・ 財政状況は厳しいが、災害等に備えて水道施設や管路の更新を進める

アクションプラン前期編 評価指標 5か年の取組結果一覧

施策柱	評価指標	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	評価	
1 安全でおいしい水の追求	① 水源林の間伐面積	目標 (単年値)	5.5ha	7.5ha	7.5ha	13ha	13ha	○	
		実績	5.0ha	作業中止	7.5ha	15ha	13.1ha		
	《間伐》混みすぎた林の木を間引くこと。残す木の生育を助け、光が差し込み、下草などが茂るため、水源かん養機能や土砂流出防止機能も高くなる。								
	② 水道G L P 認証の継続	目標	中間検査			更新		中間検査	○
		実績	継続	継続		更新	継続	継続	
	《水道G L P》水道水質検査優良試験所規範の略称（優良試験所規範：Good Laboratory Practice）。水質検査は、需要者が直接口にする水の安全性を確認することが目的であるため正確かつ高い精度、高い信頼性の保証が求められる。水質検査の信頼性を保証する認定制度。								
	③ かび臭原因物質の目標値（5ng/L以下）達成率	目標 (単年値)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	○
		実績	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	④ 平均残留塩素濃度	目標 (単年値)	0.44mg/Lより低下	低下	低下	低下	低下	0.43mg/L	○
		実績	0.43mg/L	0.43mg/L	0.42mg/L	0.40mg/L	0.43mg/L		
《残留塩素》水道法では衛生上必要な措置として、蛇口から出る水道水の残留塩素濃度を0.1mg/l以上保持するように塩素消毒を義務付けている。一方、塩素臭を感じるとおいしくないと感じるため、法律の定めに近い数値での運用が理想。									
⑤ 直結給水方式の新規及び切替件数	目標 (単年値)	169件より増加	増加	増加	増加	増加	185件	×	
	実績	167件	158件	176件	186件	186件	162件		
【未達成理由】給水装置工事の申込総件数が減少している中、HPで広報や窓口協議時に提案を行ったが希望者が少なく、未達成となった。									
《直結給水方式》3階までの建物での各部屋への直圧給水や、4階以上のマンションなどで増圧ポンプ（個人設置）による各部屋への加圧給水のこと。貯水タンクが不要となり、タンク清掃の手間がいらす、水質の劣化を防ぐ。									
2 水の安定供給と強靱性の確保	⑥ 三野浄水場脱水処理施設の更新・耐震化事業進捗率	目標 (累積値)	計画作成	16%	37%	61%	100%	×	
		実績	計画済	0%	0%	23.8%	68.4%		
	【未達成理由】三野浄水場の場内整備工事との調整により発注を2か年見送ったため。								
《脱水処理施設》浄水処理の過程で生ずる泥を処分するために脱水する施設									
⑦ 電気・機械設備の更新事業進捗率	目標 (累積値)	20%	40%	60%	80%	100%	○		
	実績	25%	37%	58%	68%	100%			

評価：「○」達成、「×」未達成、「-」未評価

施策柱	評価指標	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	評価	
2 水の安定供給と強靱性の確保	⑧ 配水池の耐震化率	目標 (累積値)	58.6%	58.6%	58.6%	60.2%	63.3%	×	
		実績	59.7%	60.6%	60.6%	60.6%	60.6%		
	【未達成理由】大内浄水場廃止及び企業団受水整備事業の計画変更により、耐震化予定の配水池の整備を見送ったため。								
	⑨ ポンプ場の耐震化率	目標 (累積値)	48.8%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	○	
		実績	49.1%	51.8%	52.0%	52.0%	52.0%		
	⑩ 合併地区浄水場の再編等進捗率	目標 (累積値)	2%	17%	37%	57%	100%	×	
		実績	1%	8%	25.5%	42.2%	60.3%		
	【未達成理由】大内浄水場廃止及び企業団受水整備事業の計画変更・事業追加により、事業の総額が大きく増えたため（実績値の算出方式：事業の実施済額/事業の総額）								
	⑪ 老朽管更新延長	目標 (累積値)	25km	50km	75km	100km	125km	×	
		実績	29km	54km	78km	103km	124km		
	⑫ 管路耐震管率	目標 (累積値)	15.2%	16.3%	17.5%	18.5%	19.6%	×	
		実績	15.3%	16.3%	17.5%	18.5%	19.5%		
	【未達成理由】事業進捗の遅れのため。								
	⑬ 基幹管路（口径400mm以上）耐震適合率	目標 (累積値)	42.8%	43.5%	44.6%	45.8%	47.2%	○	
実績		45.5%	45.8%	45.8%	47.5%	49.1%			
《耐震適合》耐震適合性のある管とは、耐震管（継ぎ目の接合部分が離脱しない構造となっている管）に、耐震管以外でも現地の地盤を考慮して耐震性があると評価できた管を加えたもの									
⑭ 耐震確保拠点施設数	目標 (累積値)	16施設	17施設	18施設	19施設	20施設	○		
	実績	18施設	19施設	20施設	21施設	21施設			
《耐震確保拠点施設》浄水場や配水池から当該施設に至る管路が耐震化されている、災害時に拠点となる施設									

評価：「○」達成、「×」未達成、「-」未評価

施策柱	評価指標	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	評価
2 水の安定供給と強靱性の確保	⑮ 災害時確保水量	目標 (累積値)	49,690m ³	49,690m ³	49,940m ³	49,940m ³	51,440m ³	×
		実績	49,690m ³	49,690m ³	49,690m ³	49,690m ³	49,690m ³	
	【未達成理由】大内浄水場廃止及び企業団受水整備事業の計画変更により、緊急遮断弁設置予定の配水池の整備を見送ったため。							
	《災害時確保水量》災害時の大規模漏水で水の消失を防ぐために、配水池構造を2層化（2池化）し、震災時に緊急遮断弁で一方の水を確保している。その他、耐震性緊急貯水槽（西大寺緑花公園100m ³ 、水道局本局20m ³ ）により常時、確保している水量。							
	⑯ 災害時の燃料確保日数	目標 (累積値)	0.80日分	0.84日分	0.84日分	0.84日分	0.84日分	0.85日分
実績		0.80日分	0.80日分	0.84日分	0.84日分	0.84日分	0.84日分	
【未達成理由】紙工浄水場の休止が1年延期され、令和4年度実施となったため。								
⑰ 浄水場浸水対策数	目標 (累積値)	2か所	4か所	5か所	5か所	5か所	5か所	○
	実績	2か所	2か所	5か所	5か所	5か所	5か所	
⑱ 市街地の小ブロック化数	目標 (累積値)	2か所	4か所	4か所	4か所	10か所	10か所	○
	実績	2か所	8か所	16か所	27か所	33か所	33か所	
《市街地の小ブロック化》配水区域を小規模に分割して管理することで災害や事故時の断水区域を最小限に抑えけるとともに、早期復旧にも寄与するもの。								
3 満足度を高めるサービスの充実	⑲ (受付業務に関する) お客さまの満足度	目標 (単年値)	77.4% より上昇	上昇	上昇	上昇	80.0%	○
		実績	意識調査 無し	意識調査 無し	意識調査 無し	80.1%	意識調査 無し	
	⑳ 料金収納率	目標 (単年値)	91.1% 以上	91.1% 以上	91.1% 以上	91.1% 以上	91.1% 以上	○
		実績	91.1%	91.2%	91.1%	90.7%	91.1%	
	㉑ SNSを利用する 情報発信回数	目標 (単年値)	60回/年 以上	60回/年 以上	60回/年 以上	60回/年 以上	60回/年 以上	○
実績		72回/年	64回/年	60回/年	62回/年	60回/年		
《SNS》Facebook（フェイスブック）、Twitter（ツイッター）など、個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援することを目的としたインターネットを利用するサービス。								
㉒ 出前講座実施回数	目標 (単年値)	10回/年 以上	10回/年 以上	10回/年 以上	10回/年 以上	10回/年 以上	○	
	実績	10回/年	14回/年	25回/年	30回/年	24回/年		
《出前講座》水道に関する理解を深めることを目的に、小学4年生を対象とした水道出前講座に加え、公民館等で行う大人向けの水道出前講座を実施した。								

評価：「○」達成、「×」未達成、「-」未評価

施策柱	評価指標	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	評価	
4 持続可能な水道システムの構築	⑳ 企業債借入残高	目標 (累積値)	249億円	246億円	242億円	237億円	232億円	○	
		実績	237億円	236億円	227億円	224億円	224億円		
	㉑ 省エネルギー機器の導入率	目標 (累積値)	48.4%	50.1%	52.4%	53.4%	54.1%	×	
		実績	48.8%	49.3%	52.4%	52.5%	53.5%		
	【未達成理由】三野第5水源3号ポンプの更新方法を、機器更新からオーバーホール（更新後もエネルギー効率が変わらない方法）に変更したため								
	《省エネルギー機器の導入》取水、送水、配水のために使用されるポンプの省エネルギー機器化								
㉒ 有効率	目標 (単年値)	92.2% より上昇	上昇	上昇	上昇	93.1%	○		
	実績	92.9%	92.8%	92.7%	93.3%	93.3%			
《有効率》有効率＝年間有効水量÷年間配水量×100。有効水量とは、有効に使用された水量のことで、主に配水量から漏水量を除いた水量。									

評価：「○」達成、「×」未達成、「－」未評価